

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 7 月 5 日 (2007.7.5)

【公表番号】特表 2006-528211(P2006-528211A)
 【公表日】平成 18 年 12 月 14 日 (2006.12.14)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-049
 【出願番号】特願 2006-529603(P2006-529603)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 31/80 (2006.01)

A 6 1 K 33/06 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/80

A 6 1 K 33/06

A 6 1 P 35/00

A 6 1 K 9/10

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 5 月 18 日 (2007.5.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

構成物質がポリジメチルシロキサンと界面活性剤であり、ポリジメチルシロキサンの割合が界面活性剤の割合を上回ることを特徴とする抗がん用の内服用の薬。

【請求項 2】

2 つの構成物質の混合物が、割合が約 90 から 99.9 重量%の範囲、好適には 99 重量%のポリジメチルシロキサンと、0.1 から 10 重量%、好適には 1 重量%の界面活性剤とを含むことを特徴とする、請求項 1 の薬。

【請求項 3】

ケイ酸アルミニウム、好適には粒径が 10 μm から 70 μm の範囲、好適には 40 μm である天然ゼオライトと、粒径が 2 μm から 30 μm の範囲、好適には 10 μm であるドロマイト粉末とを添加したことを特徴とする、請求項 1 ないし 2 の薬。

【請求項 4】

最終製品内で追加構成物質の割合は、50 重量%から 90 重量%、好適には 70 重量%のケイ酸アルミニウムと、5 から 45 重量%、好適には 25 重量%のドロマイト粉末であることを特徴とする請求項 3 の薬。

【請求項 5】

陰イオン界面活性剤の質量分率が両性及び非イオンの質量分率を上回る、陰イオン、両性イオン、非イオン界面活性剤を含むことを特徴とする請求項 1 ないし 4 のいずれかの薬。

【請求項 6】

抗がん用の内服用の薬を製造するための、ポリジメチルシロキサンと界面活性剤の使用。

【請求項 7】

ポリジメチルシロキサンと界面活性剤の２つの構成物質の混合物が、割合が約 90 から 99.9 重量%の範囲、好適には 99 重量%のポリジメチルシロキサンと、0.1 から 10 重量%、好適には 1 重量%の界面活性剤を含むことを特徴とする、請求項 6 の薬を製造するためのポリジメチルシロキサンと界面活性剤との使用。

【請求項 8】

ケイ酸アルミニウム、好適には粒径が 10 μm から 70 μm の範囲、好適には 40 μm の天然ゼオライトと、2 μm から 30 μm の範囲、好適には 10 μm のドロマイト粉末を添加したことを特徴とする、請求項 6 ないし 7 の薬を製造するためのポリジメチルシロキサンと界面活性剤との使用。

【請求項 9】

最終製品内で追加構成物質の割合は、50 重量%から 90 重量%、好適には 70 重量%のケイ酸アルミニウムと、5 から 45 重量%、好適には 25 重量%のドロマイト粉末からなることを特徴とする、請求項 6 ないし 8 のいずれかの薬の製造するためのポリジメチルシロキサンと界面活性剤との使用。

【請求項 10】

陰イオン界面活性剤の質量分率が両性及び非イオンの質量分率を上回る、陰イオン、両性イオン、非イオン界面活性剤を含むことを特徴とする請求項 6 ないし 9 のいずれかの薬を製造するためのポリジメチルシロキサンと界面活性剤との使用。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

この目的は、ポリジメチルシロキサンと界面活性剤とからなり、ポリジメチルシロキサンの割合が界面活性剤の割合を上回る薬により達成できる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明の特色は、本発明の効果は界面活性剤を添加することで初めて達成できるという点にある。その理由は、ポリジメチルシロキサンを界面活性剤と混合することで、体にはシロキサンを乳化し、それを利用可能にする可能性が与えられるからである。これはポリジメチルシロキサンの分子構造を分解する界面活性剤により達成できる。溶液の重量に関して、界面活性剤の割合はポリジメチルシロキサンの割合よりもかなり小さくできる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

陰イオン界面活性剤の質量分率が両性及び非イオンの質量分率を上回る、陰イオン、両性イオン、非イオン界面活性剤を使用できる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

ゼオライトの結晶格子のフレーム構造は主に、 SiO_4 テトラヘドロンで作られている。それは、基質環境と容易に互換ないし交換できるナトリウム、カリウム、カルシウムなどのイオンを含む空間からなる。生体では、このゼオライトの鉱物特有の結晶構造（ケージ構造）は、アンモニアその他の窒素化合物だけでなく重金属などの毒素と結合（吸収）し、それらを消化管を通して除去するという優れた性質を持っている。除去された毒素は、体が緊急に必要とする鉱物と入れ替わる。このようにして、生体のホメオスタシス、好適には鉱物新陳代謝が維持ないし再構築される。

【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 7 】

最終製品では、追加構成物質は例えば以下の割合から構成することができる。

ケイ酸アルミニウム：50 から 90 重量 %、好適には 70 重量 %

ドロマイト粉末：5 から 45 重量 %、好適には 25 重量 %

このように形成された混合物は流動可能な粉末で、様々な方法で薬として加工できる。例えば粉末状混合物をカプセル化でき、例えば消化管で溶解する、広範に使用されているゼラチンカプセルの形にすることができる。更に粉末混合物を圧縮して容易に錠剤にでき、液体と共にあるいは液体なしに飲むことができる。